



You, Unlimited



Ryukoku

広報誌「龍谷」

2023 96
VOLUME

政策学部 松田 心太郎 さん

Brand Story

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

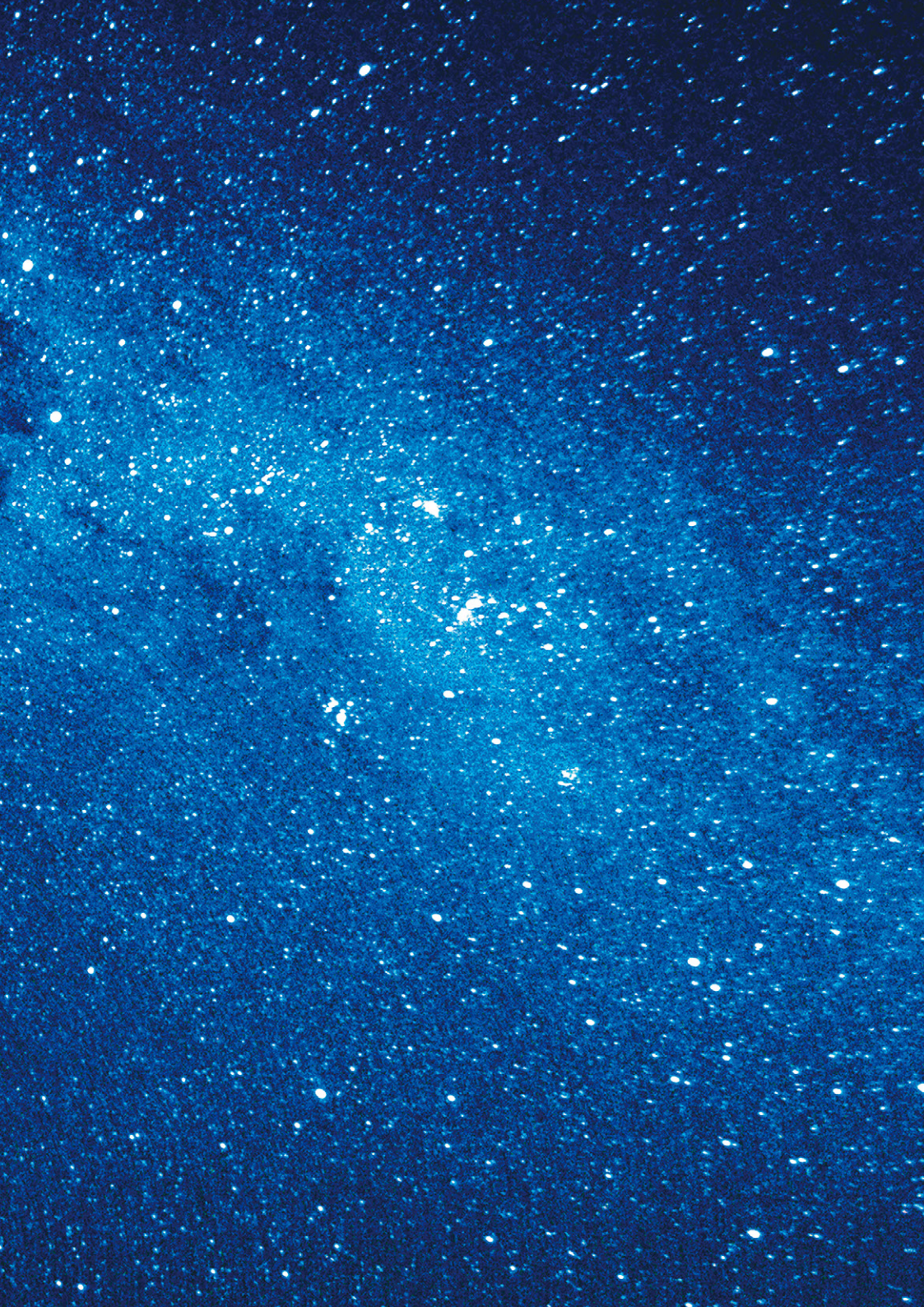
自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited



広報誌「龍谷」

- 01** P01
Feature Article
巻頭特集 学長対談
巻頭特集 学長対談
真実を見極め、未来の力となる学問
国際ジャーナリスト 龍谷大学学長
堤 未果 × 入澤 崇
- 02** P06
Ryukoku News
ムハマド・ユヌス氏に名誉学位を授与
深草キャンパス大規模施設整備 他
- 03** P12
People, Unlimited
自国の発展と国際協力を願って
JICA研修員が英語で修士号取得へ
テレシエ・ペロニカ さん 経済学研究科修士課程
ベネット・メンジ さん 経済学研究科修士課程
- P14
一人ひとりが心地良い生き方を選ぶように
「東京レインボープライド2023」に出展
ハル さん 龍谷大学LGBTs交流サークルにじりゅう代表
- P16
リーダーシップに磨きをかける
まちづくりに携わる学生団体の全国大会を運営
松田 心太郎 さん 政策学部
- 04** P18
Education, Unlimited
キャンパスを越え視点を広げる
低年次からのキャリアプログラム
インターンシップ支援オフィス長
瀧本 真人 教授 国際学部
- P22
学生の提言が発端。グローバル×ダイバーシティに
必須のMagokoroを育む国際共修科目
グローバル教育推進センター長
八幡 耕一 教授 国際学部
村田 和代 教授 政策学部
- 05** P26
Research, Unlimited
滋賀県、そして地球を守るために
アメニティの環境負荷を「見える化」
水原 詞治 講師 先端理工学部
- P30
体は健康に、心は幸せに
運動で超高齢化社会を乗り越える
井上 辰樹 教授 社会学部
- 06** P34
Event Ryukoku Museum
ユニークな仏像が、みちのくから大集合
独自の造形に込められた暮らしに密着した願い
村松 加奈子 龍谷ミュージアム学芸員
- 07** P36
Connect, Unlimited
龍谷大学をつなぐ対談
同じ志でめざす
誰もが幸せなカーボンニュートラル社会
Daigasエナジー株式会社
代表取締役社長 龍谷大学副学長
井上 雅之 × 深尾 昌峰
- 08** P40
My Campus
マイキャンパス
- 09** P42
Ryukoku Products & Amenities
オリジナル商品・学内設備の紹介
- 10** P44
News & Topics
最新情報
- 11** P48
Book Café
新刊紹介

01

Feature Article 巻頭特集 学長対談

国際ジャーナリスト 龍谷大学学長
堤 未果 × 入澤 崇



真実を見極め、未来の力となる学問

Feature Article

People, Unlimited

Education, Unlimited

Research, Unlimited

Connect, Unlimited

News & Topics

国際ジャーナリストとして、『新自由主義』に突き進む社会に警鐘を鳴らす堤未果さん。「堤さんの提言は、社会に対する私の問題提起と相通じていました」と話す入澤学長。二人の対談が実現し、様々な課題が山積する今をどう捉え、未来に向かってどう生きていくべきか語り合った。

入澤:堤さんは、アメリカでキャリアを積むなか、ワールドトレードセンターの真横のビルで2001年9月11日のアメリカ同時多発テロに遭遇したことを機に、国際ジャーナリストに転身されたとうかがいました。

堤:そうです。9.11では想像を絶するほどの恐怖に見舞われました。しかし、それ以上に、対テロの旗印のもと、国民の監視や情報統制がおこなわれるなど、アメリカという国が一夜にしてまったく変わってしまったことが本当に恐ろしかったです。

入澤:堤さんが著書で記されている「ショック・ドクトリン」ですね。

堤:はい。「ショック・ドクトリン」とは、戦争や災害などショックな事件が起きて国民が恐怖で思考停止に陥っている隙に、通常なら反対されるような政策を導入し、お友達企業が利益を得る「火事場泥棒的手法」のことです。2007年にカナダ人ジャーナリストのナオミ・クラインが暴いて有名になりましたが、9.11のアメリカはまさにその典型でした。政府とマスコミが連日テロの危険を煽る裏で、いつの間にか戦争予算が膨れ上がり、国内監視体制が強化され、教育や福祉、社会保障が削られ、大勢の老若男女がイラクやアフガニスタンの大義なき戦争に駆り出されていったのです。

入澤:私はアフガニスタンの仏教遺跡調査に従事し、対テロ戦争の余波が残る2004年に現地に渡りましたが、自身の信仰や意志ではなく、対テロ戦争から家族を守るために、わずかな報酬で自爆テロに身を投じる人が後を絶たないといった、報道とはまったく異なる事実にも愕然としました。また、9.11の半年前の3月に当時のタリバン一部過激派によって爆破されてしまったバーミヤーン渓谷の巨大大仏も、アフガニスタンの人々が何年も大切に守り続けてきた史実は報道されず、全てのアフガニスタン人が野蛮という誤った認識が植え付けられてしまいました。こういった経験から、私は真実とは何か、常に自らに問うようになっています。

堤:今のお話は非常に重要ですね。あの頃、多くの人々にとっての情報源はテレビやラジオでしたが、20年経った今は、一人一台のスマホから、24時間ノンストップで大量に情報が流れてくる時代になりました。「スピード勝負」の「ショック・ドクトリン」は、高速で情報を運ぶデジタルテクノロジーでさらに巧妙になります。仕掛けられる側の私たちは秒速で更新される大量の情報にさらされ、一つひとつを多角的に捉えたり、深く考えたりする時間がありません。だからこそ、あえて一旦立ち止まり、大きく息を吸って、物事をゆっくり深く考えることが大切です。そうすることで初めて、真実が見えてくるからです。

入澤:仰る通りです。「歩」という文字は、止まるに少ないと書きます。グローバル化やデジタル化が進歩していくからこそ、立ち止まって、溢れる情報を厳選して少なくし、自分が目にしている世界は本当なのか、他者はどう捉えているのか、想像力や共感力を駆使して思考することが、未来を生き抜く力になるのです。

堤 未果

国際ジャーナリスト。NY州立大学卒業後、NY市立大学院で修士号取得。国連、証券会社を経て現職。米国を中心に国内外の政治、経済、医療、農政、食、教育、エネルギー等、現場取材と公文書分析で幅広く調査報道とメディア出演を続ける。『ルポ貧困大国アメリカ』(2018年/岩波新書)をはじめ、日本ジャーナリスト会議賞、中央公論新書大賞、日本エッセイストクラブ賞など受賞多数。多くの著書は海外でも翻訳されている。近著に『堤未果のショック・ドクトリン』(2023年/幻冬舎新書)。Web番組「月刊アンダーワールド」キャスター。



入澤 崇

龍谷大学学長。1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は仏教文化学。1990年文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。

入澤:堤さんは『デジタル・ファシズム』という著書において、昨今のデジタル教育にも提言をされています。

堤:パンデミックで教育のデジタル化も世界規模で一気に進められましたが、これも選択肢が一択だったことから、EUの教育関係者から「ショック・ドクトリン」だったと批判されています。感染拡大防止と子どもたちの学びの継続の2つを両立させる施策が、オンライン授業一択だったために、子どもたちの視力低下や集中力の欠如、ネット環境の有無による格差など、多くの問題が吹き出しました。Google検索やChatGPTなど、AIは即答が魅力である一方、すぐに「答え」をもらえることに慣れてしまうと、私たちは考えることを止めてしまいかねません。

入澤:答えだけの提示は問題です。学問という言葉は「学び問う」と書きますが、大学をはじめ、教育の場は本来、自ら学び、考え、問うためにあります。

堤:もう一つ、教育に不可欠なのは「体感」です。本を手で触れて読み、目で見て、耳で聞いて、体を使って調べ、仲間と議論する。五感を使った体験の蓄積こそが、大量の情報が一方的に入ってくるデジタル時代から身を守ります。学長が仰ったバーミヤーンの仏像破壊。あのような事件がスマホ画面に流れてきた時、そこには書かれていない、当事者の痛みを感じられるかどうか。共感力とは察する力です。五感を使っていないと育ちません。だから教育も、先生の直接指導の方が知識以上のものを得られるのだと思います。学生は先生の「本気度」を、「熱意」を「五感」で感じ取るからです。AIに本気や熱意はなく、答えを提示するだけ。問いを投げかけてくれたり、ともに考え

たり、過ちから正解にたどり着いた時に肩を叩き喜び合うことはできません。AIが生身の先生に取って代わることは不可能です。

入澤:仏教の立場から話をすると、ブッダ(釈尊)は、相手の能力や状況などに応じて教えを説く「対機説法」を実践されました。これを教育に置き換えると、学生を「本気」で思い、教え、問い続けることが教員の使命です。本学は教員たちが熱心に教え、問い、検索すれば知識を得たつもりというようなデジタル教育の落とし穴にはまらないリアルな学問を展開しています。先日、本学で学ぶウクライナからの留学生に付属平安高校で実体験を語ってもらいました。これもリアルな学問の一つです。また、脱炭素や貧困といった社会課題に目を向け、貢献をめざす学生が増えていることを私自身、ひしひしと感じています。

堤:デジタル時代にあえてリアルな学問に価値を置き、率先して実践する龍谷大学の志は、本当に素晴らしいですね。AI時代を生き抜くためには、自らが他者、社会に「問い続ける力」と、人の痛みを感じることのできる「想像力」、即答を求めず立ち止まって考える「待つ力」が不可欠。この3つを育む教育ほど、大人ができる尊い種まきはないでしょう。3つの力を育めば、どれだけ技術が進化しても、私たちは人間性を失わず、どんな困難も乗り越え、自分も他の全てのいのちも、慈しめる社会が作れるはずですよ。

入澤:示された「3つの力」は、本学の行動哲学「自省利他」にも通じます。他者を思い、幸福に資することを考えて、行動することは「ショック・ドクトリン」をはじめとする人間の自己中心性から発生する様々な社会課題を解決し、未来に明るい希望を照らすことでしよう。



ノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス氏の 名誉学位授与式と記念講演を実施

ノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌス氏が2023年7月に龍谷大学深草キャンパスに来学され、入澤学長が式辞を述べ、名誉学位を授与しました。名誉学位授与式の後には記念講演と社会課題解決に関心のある学生2人を交えたトークセッションを実施。約100人の学生・教職員がユヌス氏の話に熱心に耳を傾けました。

ユヌス氏は1983年にバングラデシュで貧困層を対象に少額融資をおこなうグラミン銀行を創設。貧困撲滅のための新たなモデルの提示、イスラム教徒の多い国での女性の地位向上に貢献し、2006年にノーベル平和賞を受賞しました。本学への来学は2019

年に創立380周年記念事業として実施した「世界宗教フォーラム」での基調講演以来2度目。同年、本学ではソーシャルビジネスに関する教育や研究、社会実装をめざす「龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター（YSBRC）」を設立するなどユヌス氏との関わりを深めてきました。

記念講演でユヌス氏は名誉学位授与への感謝とともに社会環境の変化やこれまでの経験について語り、提唱する「CO₂排出量ゼロ」「貧困ゼロ」「失業ゼロ」の3つのゼロをめざして今後も歩み続けなければならないと訴えました。最後は「皆さんはテクノロジーを自由に使いこなせる未だかつてない



パワフルな世代です。どんな長い旅も最初は小さな一歩と想像力から始まる。まずはあなたの素晴らしい力を認めてほしい。そしてあなたが住みたい世界、創りたい世界を考え続け、恐れずに小さな一歩を踏み出してほしい」と熱いエールで締め括りました。

トークセッションではファシリテーターを清水耕介国際学部教授が務め、政策学部の中西航さんと国際学部の秋友英理賀さんは、2030年に向けSDGsの課題や今後のあり方について等、様々な質問を投げかけました。ユナス氏は「経済システムをデザインし直すことが求められます。ビジネスは利益追求ではなく、課題を解決するための手段であると、考え方自体を転換しなければなりません。そこで必要になるのがソーシャルビジネスです。SDGs達成の鍵といっても過言ではないでしょう」と回答されました。

実際に誰かが困っている問題を解決すると人は幸せを感じ自然にまた行動する。何事も挑戦して「違ったらやめればいい」というユナス氏の言葉は学生たちの背中を押ししたことでしょう。今後の活躍が期待されます。

今回の来学を機に、ユナス氏とのさらなる連携を深め、龍谷大学は社会変革のハブとなるための活動を推進していきます。





北エリア:2号館北側新棟(仮称)建築イメージ図

「深草を森にする」をコンセプトに サステナビリティ実現に向けた大規模施設整備

森のキャンパスへ生まれ変わる

龍谷大学では、創立400周年を迎える2039年度末までの長期計画「龍谷大学基本構想400」の取り組みとして、3つのキャンパスを特色化し、機能・学びを充実させる「キャンパスブランド構想」を推進しています。そのなかで、2025年4月に社会学部を瀬田キャンパスから深草キャンパスに移転し、社会科学の集積拠点として深草キャンパスを位置づけます。それにともない深草キャンパスの教育研究環境を整備するための大規模施設整備を進めています。「深草を森にする」をコンセプトに、キャンパスの各所に緑地を配置。学生や教職員だけでなく地域の方々も集う、多様な交流を促すサステナビリティ実現に向けた「森のキャンパス」へと生まれ変わります。

今回の施設整備では、4つの新棟と1つの既存施設を改修。講義席は約5,000席、食事スペースは約900席を新設。課外活動スペースは従来の延べ床面積と比較して約2.3倍に。また整備に合わせて大学が担う教育・研究・社会貢献の役割を効果的に推進するため、北・南・西のエリア別にゾーニングをおこないます。これまで一般道路で隔られていた北エリアと、南エリアを上空通路(歩道橋)で接続して南北一体となった教育・研究エリアを実現します。とりわけ南エリアはRyukoku Extension Centerや一般開放のカフェを有し、地域社会との交流を促進します。また、西エリアには、学生の課外活動拠点としてトレーニング室や音楽系サークルの練習設備などを配置する計画です。



南エリア:10・11号館跡地新棟(仮称)建築イメージ図。北エリアと南エリアが上空通路で繋がる

地域脱炭素拠点として貢献するキャンパスへ

本学は2013年から全国初の地域貢献型メガソーラー発電所「龍谷ソーラーパーク」を稼働させ、そこでの発電収益を地域社会に還元するとともに、再生可能エネルギーの普及活動に努めてきました。そして2022年1月「龍谷大学カーボンニュートラル宣言」を打ち出し、2023年6月には西日本の大学で初めて3キャンパス全ての電力が100%再生可能エネルギーとなりました。また本学は、京都市が取り組む「京都市脱炭素先行地域推進コンソーシアム」に、グリーン人材ワー

キングをとりまとめるリーダー会員として参画しており、今回の施設整備にも、太陽光パネル、ペアガラス、LED証明等を採用。地域脱炭素の拠点としても貢献していきます。

さらに、2022年2月に発表した「龍谷大学SDGs宣言」のもと「誰一人取り残さない」仏教SDGsを推進するため、新設の各棟には学生と教職員が連携して計画するオールジェンダートイレ(仮称)を整備するとともに、誰もが利用しやすい「ユニバーサルデザイン設計標準書」に基づき、本学独自のユニバーサルデザインの実現をめざしています。



南エリア:12号館北側新棟(仮称)建築イメージ図



西エリア:紫光館別館跡地新棟(仮称)建築イメージ図

全国約40拠点に 「龍谷キャリアステーション with H1T」を整備

エイチワンティ

学生の就職活動は対面とオンラインのハイブリッド型が主流になり、全国の企業にオンラインで容易にアプローチできるなど、活動のスタイルが多様化しています。龍谷大学では、それらに対応できる支援環境として、2023年2月から野村不動産株式会社と提携し「龍谷キャリアステーション with H1T」というサービスを開始。

このサービスは、同社が運営するサテライト型シェアオフィス「H1T」を本学学生が就職活動の拠点として利用するもので、首都圏や全国主要都市を中心に約40拠点を利用できるようにしました。

全席、飲食・発話可能で、Wi-Fi、コンセント完備、フリードリンクで貸出文房具の提供もおこなっており、オンライン面接だけでなく、会社訪問までの待ち時間など、リラックスして過ごすことのできる空間を学生に提供します。



全国保護者懇談会を開催

龍谷大学および龍谷大学親和会（保護者会）では、学生生活、修学状況、就職状況等の疑問点の解決や、不安を解消していただくことを目的に、保護者の皆さまと教職員が直接懇談する機会として、全国保護者懇談会を実施しています。

2023年度は、5月22日から7月22日までの期間、全国28会場で開催しました。

「学修懇談」「就職懇談」「留学説明会」「就職説明会」「学生生活相談」などの各種プログラムを開催し、合計1,603組2,078人の保護者の皆さまにご参加いただきました。また、コロナ禍の影響で開催ができていなかった懇親会は、2019年以來4年ぶりに開催することができ、ご参加いただいた保護者同士や教職員との交流を深めることができました。



大学とともに学生をサポートする 事業会社「龍谷メルシー株式会社」

RYUKOKU
MERCY



龍谷メルシー株式会社は、2013年に学校法人龍谷大学(以下大学)が100%出資し設立した事業会社で、2023年4月に設立10周年を迎えることができました。2022年4月には瀬田キャンパスに事業所を開設し、大学とともに瀬田キャンパスの活性化を推進しています。

龍谷メルシーでは、龍谷大学専用寮・学生

マンションの斡旋、キッチンカーやお弁当店の手配、卒業式貸衣装の紹介、安心をご提供する保険販売、キャンパス建物管理等をおこなっています。その他、大学関連グッズの制作・販売も手掛けています。

学生の皆さまにより良い学生生活を送っていただけるよう、引き続き大学とともに学生をサポートしていきます。



農学部が開発に携わった商品が 大津市ふるさと納税返礼品に採択

龍谷メルシー・瀬田事業所が大津市ふるさと納税返礼品提供事業者として登録され、農学部が開発に携わった商品が大津市ふるさと納税返礼品に採択されました。ふるさと納税を通じた地域への貢献や龍谷大学および学生の活動を地域や全国の方々に幅広く知っていただく機会になればと期待しています。

返礼品は、農学部の学生たちが実習農場(大津市牧地区)で生産した『龍谷米』と、創業二百四十余年の石野味噌(京都市)とコラボ開発したオリジナル『白味噌』と、日本料理「新月」(大津市)の監修で仕上げた『小豆粥』を詰め合わせたセットです。

詳細は整い次第、龍谷メルシーのホームページにてお知らせいたします。



龍谷メルシーホームページ
<https://www.r-merci.jp/>



03

People, Unlimited

経済学研究科修士課程 1年生

チレシェ・ベロニカ さん

経済学研究科修士課程 2年生

ベネット・メンジ さん

自国の発展と国際協力を願って JICA研修員が英語で修士号取得へ

龍谷大学経済学研究科は、国際協力機構（JICA）と文部科学省の奨学金を受給する外国人留学生を対象に、英語のみで経済学の学位を取得できるプログラム「English-based Degree Program」を2020年度から常設している。経済学の実践的技法が必修科目。その上で、各自の研究テーマに基づき「理論・思想・歴史」「政策・応用」「国際・民際」の3分野から体系的な科目履修ができるよう工夫されている。現在、JICA研修員として2人のアフリカからの留学生が本プログラムで学んでいる。

エスワティニ王国から「SDGsグローバルリーダーコース」研修員として入学したベネット・メンジさんは「農村の土地譲渡とウェルビーイングの関係」について修士論文を執筆している。来日後、授業を通して興味を持ったのは明治時代や第二次世界大戦後の日本の産業発展の経験。中小企業論等の受講を通じて、政府の戦略や政策が経済をどう変えたのかを学ぶのが楽しいという。

ザンビア共和国から「ABEイニシアティブ（アフリカの若者の産業人材育成）」研修員として入学したチレシェ・ベロニカさんは「シングルマザーであることが子どもの健康に与える影響」について、ザンビアの事例を研究。中国経済論等を通じて、政策が各国で異なる仕

方で機能していることに興味を持ったという。

お二人に龍谷大学の魅力を聞いたところ「経済学を総合的に学べる。幅広い専門を持った先生方による少人数指導で質問もしやすい。留学生も多く様々な文化や視点に触れる良い機会になりました」とメンジさん。「綺麗な校舎や安定したネット環境、親切な人たちのもとで研究を重ね、アフリカの現実がより見えてきました」とベロニカさん。

二人とも日本で暮らし学ぶなかで、市井の人々の意識の大切さを実感したという。「買い物をする時に環境に優しい商品を選ぶなんて、日本に来るまで考えたこともなかった。政府の政策が機能するには、目的を共有した一般の人々が一緒に動くことが大事だと知りました」とメンジさん。「日本は中小企業が多く、経済を支えているのは大企業だけではないと知った。ビジネスを始める人が多く、考え方の豊かさを感じました」とベロニカさん。

メンジさんは博士課程へ進学し、帰国後、経済学の先生になりたいと言う。ベロニカさんは博士課程へ進学し、帰国後、起業して農園を経営したいと語る。

二人にとってここは一つの通過点。各国の良さを教え、教えられ、その叡智を母国と世界のために活かしていくだろう。



4 質の高い教育を
みんなに



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



Feature Article

People, Unlimited

Education, Unlimited

Research, Unlimited

Connect, Unlimited

News & Topics

経済学について語るチレシエ・ペロニカさん(左)とベネット・メンジさん(右)



「東京レインボープライド2023」に出展した本学ブースの様子

03 People, Unlimited

龍谷大学 LGBTs 交流サークルにじりゅう代表
ハル さん



一人ひとりが心地良い生き方を選ぶように 「東京レインボープライド 2023」に出展

2023年4月、東京の代々木公園で開催された性の多様性を認め合う社会をめざすアジア最大級の祭典「東京レインボープライド 2023」に、学生団体「LGBTs交流サークルにじりゅう」と政策学部地域課題解決プログラム「Ryu-SEI-GAPにじこ」の学生6人、そして宗教部職員が共同で出展。関東以外の大学では唯一。2019年に続いて2度目の出展となる今回は本学独自の取り組みを紹介する展示とレインボー念珠づくりのワークショップをおこなった。イベント広場には企業や団体から250を超えるブースが出展し、2日間で約24万人が来場した。にじりゅうの代表を務めるハルさんは、誰もが自分らしく生きることに關心を持つ人の多さに圧倒されたという。

今回の出展は、マイノリティに関する悩みを持つ人が過ごしやすい場所を作るために少しでも今できることをしたいというハルさんの強い思いから出発した。宗教部の紹介でにじここの学生と繋がり、全員で準備を進めた。これほど大規模なイベントでのブース運営は初めての経験。どんなことができるのか過去の出展時の資料なども参考に何度も話し合いを重ね、仏教をベースにする龍谷大学らしく「レインボー念珠づくりワークショップ」を開催。材料の調達から予算管理、来場者数の想定や当日のオペレーションなど学生たち

が自ら考えて運営した。

「一人ではここまでできなかったのと一緒に出展したメンバーや応援して下さった皆さまには感謝で一杯です。企業の方や他大学の学生さんと交流して、時代の変化を体感しました。また、これほど熱心にサポートしてくれる大学は他にはないと思うので、本当にありがたいと感じました。活動したい人が活動できる環境がもっと増えていくといいと思います」

これまで本学の学生と教職員が協力して「性のあり方の多様性に関する基本指針」の策定や、だれでもトイレの設置などに取り組んできた。より良くするためにハルさんは「大学内のマイノリティや性に関する悩みを持つ人の数を調査し、今回できたにじこや他大学との繋がりをさらに広げて、関西・関東と全国のデータが集められたら何か変わるのではないか」とにじりゅうの後輩とともに新たな挑戦に向けて動き出している。

誰もがそれぞれのマイノリティを抱えていて「自分を知って欲しい。でも、それによって自分が傷つくかもしれない」と葛藤した経験があるのではないかと。だからこそ人はともに手を取り合って生きるための選択肢を増やしていける。社会に虹をかけるべくハルさんの取り組みはこの先も続いていく。



深草キャンパス近くの西浦地区でフィールドワークをおこなう松田さん

03 People, Unlimited

政策学部 政策学科 3年生
大阪府立夕陽丘高等学校 出身
松田 心太郎 さん



リーダーシップに磨きをかける まちづくりに携わる学生団体の全国大会を運営

2023年7月1日、2日の2日間にわたり「第28回全国まちづくりカレッジ2023@京都西浦」(通称まちカレ)が龍谷大学深草キャンパスにて開催された。

日本全国から、地域と協働したまちづくりに携わる計10大学の学生約260人が本学に集結し、それぞれのまちづくりの取り組みを共有する。1日目は各団体の取り組みを発表。夕方からは深草キャンパス近くの西浦地区にて地域の方々と交えたお祭り。2日目は西浦地区でのフィールドワーク。全国各地でまちづくりに挑む学生たちが熱く交流した。

「まちカレ」は2002年に始まり22年目28回を迎える。今年度の運営実行委員長を務めたのが、本学3年生の松田心太郎さんだ。1年前の香川大会の最終日、所属ゼミの服部圭郎教授から「次回は本学開催。実行委員長を頼む」と突然の白羽の矢が立った。驚きつつも「人のために何かやるのは嫌いじゃない」松田さんは、人生初の大会運営にひと肌脱ぐことを決めた。

「間違いこそ学び」と服部教授は松田さんの初めての挑戦を後押しして見守った。実行委員の選出、参加団体の募集、プログラム策定、当日の進行までほとんどを学生のみで成し遂げた。

一つひとつの事案を自分の責任として判断し、決断していくことの不安や葛藤に最後まで悩んだ、と松田さん。1日目の夕方からは西浦地区の公園で懇親会を開催。地域企業の食材を使った焼きそばなど学生による出店と、先生や学生、地域の方とのコラボレーションによるライブで盛り上がった。2日目は全チームを混合して編成したグループに分かれて西浦地区を散策し、各グループが地域の特徴や良さをまとめて発表した。学長や地域の方々から講評を受け、西浦地区の魅力を再確認できた。

「まちカレ」運営を通して、覚悟を持って実行すればミスをして後悔しないという自信ができました。また、目的達成のための手段は一つじゃないと学びました。ある手段が上手くいかなくても、思考停止せず、他の道を探り出すことが大事なんだと実感しました」

政策学部での学びを通して、まちづくり活動の中の、対話重視の精神に興味を抱いたという松田さん。完全な意見一致が困難な状況でも対話による解決をあきらめない、その地道なプロセスに魅力を感じている。

「これからも討論会などの取り組みが待っています。ともに学ぶ仲間を大切に、目の前のことをコツコツと取り組んでいきたいです」

04 Education, Unlimited

インターンシップ支援オフィス長
国際学部
瀧本 真人 教授

キャンパスを越え視点を広げる 低年次からのキャリアプログラム

時代の変化に対応する実践的な教育

龍谷大学は、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラム「協定型インターンシップ」を2006年から提供してきたが、2022年度入学生からは「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」としてその内容を刷新した。

これは1・2年次生限定のプログラムで、事前に履修する「教養教育科目特別講義（キャリア入門）」（2単位）と、企業等での実習およびその直前・事後学修である「キャリア実習・実習指導」（2単位）の2科目からなる。

「教養教育科目特別講義（キャリア入門）」は、グループワークを中心としたオンライン授業。キャリア形成に関する現代社会の諸課題やそれらを取り巻く状況を、経済、労働、人権、法律、DXなど幅広い視点から学び理解を深めるとともに、自身のキャリアを考え、キャリアプランニング（人生設計）を実践できる力を身に付けるのが目標だ。授業にはChatGPTに関する講義を組み込むなど、先進的な内容になっている。また、オンラインの機能を最大限に活かして、学生が学部やキャン

パスを越えて学び合えるキャリア教育を具現化。この取り組みで2022年度「龍谷ICT教育賞（組織的取組）」^{*}を受賞した。

一方、「キャリア実習・実習指導」では、経済同友会会員企業を含む、本学が協定を締結する企業・団体等での就業体験をおこない、終了後には、実習を通じて喚起された問題意識、関心等を参加学生内で共有してキャリアや社会への理解を深める。直前・事後学修では普段は関わるのが少ない他キャンパスや他学部の教員・学生とも交流ができ、多様な価値観に触れながら、社会で働く意識を高めていく。

インターンシップ支援オフィスは、常に柔軟な運営を心がけ、学生と社会を繋ぐ。「このプログラムでは課題発見力や主体性、発信力や傾聴力といった社会で求められる能力を身に付けることができます。『キャリア入門』という全学部共通科目の創設には、これまで学部ごとにおこなってきたキャリア教育がベースにあり、各学部の先生方の理解と協力のもと実現できました。協働する風土があるのは龍谷大学の大きな魅力です」と瀧本インターンシップ支援オフィス長は語る。

^{*}ICT（情報通信技術）を活用して授業運営に尽力している教員や、学生の学修意欲向上に努めている教職員を対象に、優れた取り組みを表彰する本学の制度。



Feature Article

People, Unlimited

Education, Unlimited

Research, Unlimited

Connect, Unlimited

News & Topics



低年次におけるキャリア教育の重要性

オンラインでありながら、グループワークを通してチーム力を試し鍛える機会にもなっている「キャリア入門」の学生人気は高く、2023年度は定員である250人の学生が登録をおこなった。

昨年度実際に「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」を受講した学生からは「普段交流の少ない他学部生と関わることで自分になかった考え方、捉え方を知ることができた」「困った時にインターンシップ支援オフィスや先生方からのアドバイスに助けられ、前向きに取り組めた」「事前学修、実習、事後学修で段階的に自分の力を伸ばすことができ

た」など肯定的な声が多く寄せられた。

「早い段階でキャリアを意識した大学生生活を送る大切さに気づけば、計画的に充実した4年間を過ごすことができる。それがまさにキャリアを考えるということに繋がっています。企業で重視されているのは、実行力、コミュニケーション能力です。どんな学生生活を体験したのかを自分の言葉で魅力的に話せる人になってチャンスを広げてもらいたい」

インターンシップ支援オフィスでは、学生が希望する企業と上手くマッチングするよう、企業ごとの特徴を提示するなど工夫をこらしている。実習先については、さらに多くの学生が参加できるよう常時企業開拓に取り組んでいる。また、受講希望者が多い「キャリア入門」



日本航空株式会社*で実習を受ける学生の様子
 ※RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム(経済同友会)の実習先

はきめ細かい指導を維持しつつ、より多くの学生が受講できるよう、定員数増を検討中だ。

「チャレンジ精神を持って是非一步を踏み出してほしい。実際に飛び込んでみたら何でもないこともあるし、私たちインターンシップ支援オフィスも全力でサポートします。そしていつか受講生から後輩へとバトンを繋げる仕組みづくりができたらと思っています」と瀧本インターンシップ支援オフィス長。

龍谷大学独自の「キャリア教育」は自分の将来設計について考える機会となり、主体的な進路選択や高い職業意識が醸成されるだけでなく、授業や実習先での新しい出会いや繋がりが学生一人ひとりの成長に結びついていく。



瀧本 真人

広島大学総合科学部卒業。筑波大学大学院、クイーンズランド大学大学院を経て、モナシュ大学(オーストラリア)大学院人文社会科学研究科博士課程修了。専門分野は、通訳・翻訳研究、応用言語学。モナシュ大学人文社会科学部准教授を務めるかたわら、会議通訳者・翻訳者としても活躍。アジア競技大会の公式通訳者として、当時、快進撃を続けていたなでしこジャパンの通訳なども担当した。2013年度から龍谷大学国際学部教授。

04

Education, Unlimited

グローバル教育推進センター長
国際学部

八幡 耕一 教授

政策学部

村田 和代 教授

学生の提言が発端。グローバル×ダイバーシティに 必須のMagokoroを育む国際共修科目

留学生と学び、絆を深める授業を立案

龍谷大学は「龍谷大学基本構想400」に沿って、「Ryukoku Global Vision 2023」を策定。全学部が積極的に留学生を受け入れて多様性を理解し、外国人とともに生きていく社会に対応できる人材の育成をめざしている。これを具現化すべく、2023年前期、学部生・留学生と一緒に学ぶ「国際共修科目」のパイロット授業として、政策学部の「グローバル・コミュニケーション英語A」と、交換留学生向けプログラム（JEP-E）の科目「Introductory Seminar A」を1つの授業として開講した。受講したのは政策学部の18人の学部生と14カ国28人の交換留学生。「実はこの授業は、私のゼミ生たちの提言によってスタートしました」と語るのは、今回の国際共修科目を担当した政策学部の村田和代教授だ。きっかけは村田教授のゼミが開いた留学生との交流会。その際、留学生から「日本人の学部生と友人になりたいが、接する機会が少ない」との声が聞かれたことから、ゼミ生たちが立ち上がった。どうすれば留学生と学部生が交流を回り、絆を深めることができるのか。限定的なイベントでは、一過性の交流に終わる可能性

が高い。そこで、ゼミ生たちは学部生と留学生がともに学ぶ「国際共修科目」の制定を立案。国内外の大学の国際共修科目の事例を調査し、日本屈指の国際共修科目の開講数を誇る東北大学へのヒアリングも敢行。村田教授にアドバイスを受けながら、到達目標と講義概要、全15回にわたる授業計画を完成させた。そして、2022年9、10月、村田和代ゼミ3年生が、同ゼミ2年生と留学生11人を対象に、実践調査も兼ねた全5回の国際共修を実施。初めは学部生と留学生に距離があったが、徐々に打ち解け、グループワークもスムーズに進行。良き友人関係の構築にも結びついた。

グローバル教育推進センターのセンター長を務める、国際学部の八幡耕一教授は、学生の提言によって「国際共修科目」のパイロット授業の実施に結びついたことを高く評価する。

「私は『Ryukoku Global Vision 2023』が掲げる目標を達成するには、日本人と外国人の学生がともに学び高め合う機会が必要であり、全学部での国際共修科目の導入を構想していました。なので、村田教授のゼミ生たちの取り組みは、画期的かつ理想的で、教員として学生の気づきと行動を嬉しく思いました」



4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



Feature Article

People, Unlimited

Education, Unlimited

Research, Unlimited

Connect, Unlimited

News & Topics



「協働」こそが培う異文化間能力

政策学部×交換留学生向けプログラム（JEP-E）の国際共修科目には、二つの大きな特徴がある。一つ目は、到達目標が語学力の修得ではなく、様々な文化的背景を持つ他者を理解し、柔軟に対応する異文化間能力の向上であること。講義は英語ベースだが、チーム内の議論は何語でもよく、翻訳ツールも用いた。二つ目は、PBL型授業であること。「PBLは机を並べての座学よりも学生の繋がりが密に濃くなるからです」という八幡教授。学部生と留学生は①龍谷大学のキャンパスツアー動画の制作②地域の小学生にダイ

バーシティを紹介するワークショップの開催③深草西浦町で実施の夏祭りイベントでの模擬店出店、の3つのプロジェクトに分かれた。「プロジェクトには協働が不可欠。バックボーンが異なるメンバーとは衝突、葛藤が生じるでしょう。しかし、これを乗り越えてこそ、異文化間能力の向上が図れます」と村田教授。学生たちは持てる言語資源とツールを駆使し、懸命にコミュニケーションをとった結果、チーム一丸となってプロジェクトを完遂。国籍や言語が違って心を通わせることができるという自信を双方の学生が獲得した。「この成功体験は、日本でも当たり前になりつつある、多様な人とともに働く、暮らすことにお



国際共修の中心的役割を担った井上大和さん(政策学部4年生)

いて、大きな力になるはずですよ」と村田教授。「異文化間の理解と協働には、語学も必要ですが、何よりも大切なのは本学が掲げる『まごころ～Magokoro～』です。このマインドも国際共修科目で育みたいと思います」と八幡教授は国際共修科目への思いを語った。

ワークショップでは地域の子どもと、夏祭りイベントでは町の人と留学生が交流。こうした出会いやふれあいが外国人への社会の受容に繋がることも期待する両教授。国籍や言語を越えて相手を思い、学び合う・助け合う、共生社会の実現に国際共修科目の果たす役割は大きい。



八幡 耕一

北海道大学大学院修了(国際広報メディア)。専門は情報文化論、メディア社会論。日本放送協会、国際協力銀行、名古屋大学大学院での勤務を経て、2011年龍谷大学国際文化学部着任。2015年国際文化学部の改組移転により国際学部准教授。2021年より同学部教授。2023年龍谷大学グローバル教育推進センター長就任。



村田 和代

ニュージーランド国立ヴィクトリア大学大学院言語学科Ph.D.(言語学博士)。専門は社会言語学。2001年龍谷大学法学部着任。2011年政策学部創設により政策学部准教授。2012年同学部教授。2017年から2020年まで龍谷大学グローバル教育推進センター長。2019年龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター長。2023年政策学部学部長就任。

05

Research, Unlimited

先端理工学部
水原 詞治 講師

滋賀県、そして地球を守るために アメニティの環境負荷を「見える化」

製造・廃棄時のCO₂排出量を推定

琵琶湖をはじめ、美しい自然に恵まれた滋賀県。この環境を守り、観光との共生をめざして、2022年1月、滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合がSDGs行動宣言を発表。行動の一つとして、客室に設置している歯ブラシなどのアメニティのプラスチックごみを2030年までにゼロにする目標を掲げた。施設単位ではなく、ホテル・旅館が一丸となったの取り組みは全国でも稀な事例という。しかし、アメニティは、おもてなしの一環であり、簡単には廃止できない。そこで、組合から滋賀県中小企業団体中央会を通じて産官学・地域連携を図る龍谷エクステンションセンター（REC）に相談があり、先端理工学部の水原詞治講師が目標達成に向けて、協働を開始した。水原講師は、プラスチックを炭化・活性炭化することで吸着剤などに再利用するといった、廃棄物の有効利用について研究。その一環として、アメニティの調査や廃棄に関するアドバイスをおこなう。「アメニティ廃止には、宿泊客だけでなく、組合の方の理解も不可欠です。そこで、CO₂の削減などメリットの見える化を図りました」

まず、提供数の多いプラスチック製歯ブラシをピックアップ。宿泊施設はコロナ禍の影響が大きかったことから、正確なデータを得るためコロナ禍前の2019年度を対象に、組合のホテル・旅館での提供本数をアンケート調査した。全202軒のうち、回答のあった58軒の年間の提供本数は959,254本。この実数から試算した推定提供本数は2,473,439本に達した。さらに、「長く親交がある京都大学環境安全保健機構環境管理部門の矢野順也准教授に協力いただき、矢野先生の専門であるライフサイクルアセスメント（LCA）に基づいて、CO₂排出量を推定しました」と水原講師。LCAとは、資源採取から生産、廃棄までの製品・サービスの一生また特定段階の環境負荷を定量的に評価する手法である。今回はプラスチック製歯ブラシの製造・廃棄段階に絞って推定したところ、CO₂排出量は1本あたり約60g、約250万本では約150t。つまり、プラスチック製歯ブラシの提供を廃止すれば、年間、約150tのCO₂を削減できることが推定された。「当然ですが、櫛やシャワーキャップなども廃止すれば、削減効果は大きくなるでしょう」と水原講師は考察する。



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



Feature Article

People, Unlimited

Education, Unlimited

Research, Unlimited

Connect, Unlimited

News & Topics



意識・行動の変容が最大の目標

水原講師の調査結果を受けて、組合では、琵琶湖で伐採した植物のヨシから作られたメッセージカードに、アメニティ廃止への思いと理解を記して客室に配置。アメニティの有料販売や希望者のみへの提供など、施設ごとの取り組みも進んでいる。

「水原講師が算出くださった数値は、大学と研究者によるデータというエビデンスと説得力もあって、お客様はもちろん、組合の施設・スタッフにもインパクトがありました。アメニティ廃止への理解と目標達成をいっそう促進することに繋がっています」という組合

理事。また、組合に所属するホテルの副支配人は「環境先進県である滋賀から私たちの取り組みを発信し、全国の宿泊施設への浸透もめざしていきたいです」と意気込む。

今後は、アメニティ全般の調査、廃止による評価も段階ごとにおこなっていく水原講師には、一つの思いがあるという。

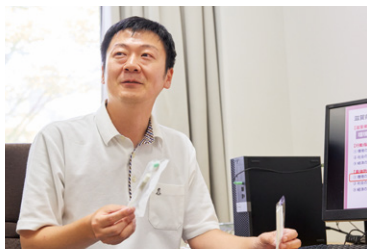
「地球温暖化をはじめ環境課題の原因が全てプラスチックにある訳ではなく、また、プラスチックの使用が悪い訳でもありません。では、なぜアメニティのプラスチックごみのゼロに取り組むのか。私も組合の方も同じ思いですが、歯ブラシをはじめとするアメニティを一度使っただけで捨ててしまうことが問題



滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合の方々と打ち合わせをする水原講師

だからです。使い捨てを減らすことができれば、ムダな製造や廃棄を抑制でき、エネルギーやCO₂、様々な段階に必要なコストの削減にも繋がるでしょう。アメニティのプラスチックごみのゼロと見える化の狙いは、人々の意識・行動の変容を図ることにあるのです。研究では、廃棄されるプラスチックも重要な資源として捉え、より有効な活用において社会に貢献していきたいです」

水原講師が語るように、宿泊施設を利用する際は、使い捨てではなく、自分の歯ブラシやヘアブラシなどのアメニティを持参するといった、一人ひとりの意識と行動が環境保全に結びついていくはずだ。



水原 詞治

龍谷大学大学院理工学研究科環境ソリューション工学専攻博士後期課程修了。2012年国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター特別研究員。2014年龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科助教に着任。2019年より龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科講師、2020年より現職。2021年、廃棄物資源循環学会奨励賞を受賞。

05

Research, Unlimited

社会学部

井上 辰樹 教授

体は健康に、心は幸せに 運動で超高齢化社会を乗り越える

運動教室開催が高齢者の生きがいに

心身の健康に重要な運動。この運動の習慣化について、運動生理学や公衆衛生学の観点から研究する社会学部の井上辰樹教授。高齢化や医療費・社会保障費の拡大といった社会課題に運動からのアプローチをおこない、自治体や企業と連携した健康増進プロジェクトにも数々取り組んでいる。その一つが滋賀県守山市の包括協定締結において、2010年から推進する「健康なまちづくりプロジェクト」だ。スキーのように2本のストックをつきながら歩行するストックウォーキングという運動の教室を月2回開催。井上教授が指導する「コミュニティマネジメント実習」を受講する社会学部の学生も運営に携わっている。「2023年で教室は13年目に突入し、この10月で200回を迎えます。参加者と学生のがんばりのおかげです」と井上教授は感謝する。

ストックウォーキングは脚力に腕力も加えた四足歩行となり、消費カロリーが増加。脚力だけでなく、全身を効率よく鍛えることができる。「脚力の推進を腕力で補完できるので高齢者の運動にも適しています」と井上教授。

教室の目的は、生活習慣病と、要介護手前の状態であるフレイル(虚弱)、引きこもりの予防。守山市としては医療費・社会保障費の適正化の狙いもある。とくに高齢者は、加齢に伴う脚力の低下により「動きにくい」→「動きたくない」→「動けない」連鎖に陥り、要介護や認知症を招く恐れがあるので、フレイルと引きこもりの防止が重要となる。教室では2kmから4kmをウォーキング。井上教授も学生も歩くのだが、高齢者との会話が弾み、誰もが楽しそうだ。もちろん運動効果も高く、参加者の多くが回を重ねるごとに脚力や体力が向上。生活習慣病の原因でもある肥満も腹囲の減少などが見られるという。そして、何より効果を発揮しているのが高齢者の心の健康だ。教室が外出のきっかけとなり、仲間や若い学生とふれあえることも楽しみに。参加者の満足度調査では『若返ったよう』『教室に通い続けたい』と好評を得ている。

「運動に加えて、心身の健康には交流の場は重要な役割を果たします。教室がそれを実証していることは研究者として嬉しく、今後の継続とともに、蓄積したデータの詳しい分析も進めていきます」



3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに

Feature Article

People, Unlimited

Education, Unlimited

Research, Unlimited

Connect, Unlimited

News & Topics



次世代の問題にも運動という解決策を

高齢者の体と心の健康に効果をもたらす運動習慣と交流の場の提供に加え、昨今、井上教授は、運動によって、うつ病や抑うつ状態を予防するメンタルヘルスの研究にも力を注いでいる。

「うつ病は仕事や人間関係などによるストレスが原因といわれていますが、発症のメカニズムを脳生理学的に見ると、記憶を司る部位である海馬が影響していると考えられています。海馬は新しい記憶を上書きして、新たな神経ネットワークを構築し、古い記憶と神経ネットワークは削除されます。ところが、

ストレスを受け続けると上書き機能が衰えて良くない記憶が残ってしまい、古いネットワークが強化されてループ。うつ状態に陥ります」と井上教授。この負のループをストップできる方策の一つが運動だという。「強度や負荷の高い運動は脳にストレスを与えるのですが、ハードなために運動中は余計なことを考えられなくなります。一方で、強い運動刺激は、多幸感を生み出す脳内ホルモンの分泌を増加させ、運動が楽しい、気持ちいいと感じて習慣化。ストレス解消やうつ病の防止にも繋がるはずですよ」

多幸感を生み出す運動は、心拍数が毎分140から150拍と高く息が上がって、汗をかく



ストックウォーキングの前に参加者と準備運動をする井上教授

強度が必要だ。しかし、守山市でのストックウォーキング教室に通う高齢の参加者を見ると、「強度に関わらず、楽しいと感じることも心の健康には大切なのかもしれません」と話す。今後はストックウォーキング教室をはじめとする高齢者の健康支援と並行して、福祉施設などの従事者を対象に運動とストレスについての介入研究をおこなうことを予定している。

「2040年には3人に1人が65歳以上という、超高齢化社会を迎えます。つまり、若い世代は減少し、高齢者を支える方々は相当のストレスを抱えてしまう可能性があります。その時に備えて、運動を通じてサポートすることが私のこれからの使命です」



井上 辰樹

日本体育大学大学院体育学研究科修士課程体育学専攻修了。体育学修士(日本体育大学)。博士(医学)(名古屋市立大学)。800m走のラストスパート時における生理学的応答の分析、解明を専門に研究。1994年京都ノートルダム女子大学文学部講師・助教授。骨粗鬆症について研究。2000年龍谷大学社会学部に着任。2008年龍谷大学社会学部教授。2023年社会学部学部長に就任。日本ストックウォーキング協会理事。ラジオ体操第3を復刻。

ユニークな仏像が、みちのくから大集合 独自の造形に込められた暮らしに密着した願い

秋季特別展

『みちのく いとしい仏たち』

2023年9月16日(土)～11月19日(日)

休館日：月曜日、9月19日(火)、10月10日(火)

(9月18日(月・祝)、10月9日(月・祝)は開館)

主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、毎日新聞社、京都新聞、

NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿

監修：須藤弘敏(弘前大学名誉教授)

制作協力：NHKプロモーション

小さな森の奥の祠に、民家の神棚に、お寺の小堂に、ぬくもりあふれる仏像や神像が祀られている。職人や僧など、仏師以外の人の手による、日常のなかで祀られてきた民間仏(みんかんぶつ)。京都や江戸から伝わった黄金に輝く仏像が本尊とされた一方で、素朴でいとしい民間仏は人々の暮らしに寄り添い、大切に護られてきた。豊かな想像力によってつくられたその姿はとってもしみややすくユニークだ。

今もみちのく(北東北)に多く残っている民間仏を調査研究された須藤弘敏氏(弘前大学名誉教授)監修による展覧会『みちのく いとしい仏たち』が、龍谷ミュージアムで開催されている。この展覧会では、青森・岩手・秋田の3県に伝わった約130点の民間仏を紹介。各章の展示構成も「笑みをたたえる」「ブイブイわせる」「やさしくかけて」「かわいくてかなしくて」などユニークなタイトルになっている。

担当学芸員の村松加奈子氏に話を聞いた。「私の一番のお気に入りには、ポスターにも起用した岩手県八幡平市の『山神像』(江戸時代)です。頭部と首で全体の半分ほどを占めるアンバランス感。体面を削って腕を浮き出す、セオリーを無視した作り。この表情からなんともいえないエネルギーを感じます」と村松氏。ただし、江戸時代のみちのくでは、災害や飢饉などの苦しみがあった点も切り離せないという。ずんぐりかわいらしい鬼や、モデルがいそうな顔つきの六観音など、ユーモラスな造形の背景には、先立った命への悲しみや供養の気持ちがあった。民間仏の作者にまでスポットがあたるのも、この展覧会の見どころだ。上北地方の大工・右衛門四良(えもんしろう)が彫った観音像や十王像は無骨であるが、どこまでも素朴でやさしい。

みちのくの厳しい風土のなかでつくられ、伝えられてきた、やさしく、いとしく、ユニークな民間仏を親に、是非龍谷ミュージアムへ。



村松 加奈子 龍谷ミュージアム学芸員



龍谷ミュージアム
Webサイト



山神像 江戸時代 兄川山神社(岩手県八幡平市) 撮影 須藤弘敏

07

Connect, Unlimited 龍谷大学をつなぐ対談

Daigas エナジー株式会社

代表取締役社長

龍谷大学副学長

井上 雅之 × 深尾 昌峰

同じ志でめざす 誰もが幸せなカーボンニュートラル社会

龍谷大学は、全国初の地域貢献型メガソーラー発電所「龍谷ソーラーパーク」を2013年から稼働。2022年1月に「龍谷大学カーボンニュートラル宣言」を発出し、創立400周年を迎える2039年までの「ゼロカーボンユニバーシティ」の実現をめざしている。この実現に向けて、2023年2月、Daigas エナジー株式会社と包括連携協定（以下本協定）を締結。カーボンニュートラルの達成やグリーン人材育成などの取り組みを進めている。「龍谷ソーラーパーク」事業の立ち上げに携わった

井上 雅之

1988年大阪ガス入社。企画部で事業法改正、料金改定、需要予測。秘書部では社長秘書を務め、資源海外事業部では既存・新規契約交渉、LNGトレーディングなどを担当。エネルギー事業部計画部長、企画部長を歴任後、2020年4月よりDGE代表取締役社長に就任。

深尾副学長と、Daigas エナジーの井上社長が本協定の展望を語り合った。

深尾:本協定では、事前に井上社長や社員の方々との対話の機会を設けていただきました。その際、カーボンニュートラルに邁進する皆さんの熱い思いと、地域貢献や価値創造といっためざす先の親和性から、より強固なパートナーシップが築けると確信しました。

井上:我々もカーボンニュートラルの実現のために様々な事業を展開していますが、龍谷ソーラーパークの発電収益を地域社会に還元するスキームは先進的で、以前から注目していました。龍谷大学深草キャンパスは地域の避難所であり、万一の災害時には、ガスコージェネレーションシステムや太陽光パネルといった自家発電装置を活用されとお

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに11 住み続けられる
まちづくりを

聞きしました。地域貢献は我々の重要ミッションの一つでもあり、同じ志に共鳴しました。

深尾:2023年6月には、西日本の大学で初めて、深草・大宮・瀬田キャンパスの使用電力の100%再生可能エネルギー化を達成。2024年1月からは、3キャンパスの使用電力の約40%が龍谷ソーラーパークで発電した電力になります。

井上:これは「再生可能エネルギー電気特定卸供給[※]」の仕組みによるものです。簡単に言うと「龍谷ソーラーパークで発電された再生可能エネルギー由来である」とDaigasエネルギーが証明した電力を3キャンパスに供給します。まさに再生可能エネルギーによる電力の自給自足ですね。

深尾:龍谷大学で龍谷ソーラーパークの発電電力を使用することは、私の念願だったので、井上社長や社員の皆さんのご尽力に感謝いたします。

井上:今後、ハード、ソフト両面からの取り組みをともに展開していくために、良い一歩を踏み出すことができましたと思います。

※発電者を特定した再生可能エネルギー電気について、事前に小売電気事業者と発電者との間で卸供給することについて承諾し、送配電事業者の送配電ネットワークを介して送配電事業者から当該小売電気事業者へ再生可能エネルギー電気を卸供給すること。

深尾 昌峰

滋賀大学大学院修士課程修了。教育学修士。2010年から本学法学部で准教授として教鞭を執る。2011年本学政策学部准教授を経て、2018年から同学部教授として現在に至る。2022年4月より龍谷大学副学長に就任。



深尾:カーボンニュートラルは、化石燃料を用いて築き上げてきた近代社会の大変革と言えるでしょう。これからどのように社会活動や経済活動を発展させていくのか、人々がどのように生きていくのか、まだ持ち得ない解を見いだしていくことが求められます。

井上:エネルギーを生業にしてきた我々にとって、カーボンニュートラルは供給源が根底から変わるまさに地殻変動でした。しかし、新たなテクノロジー開発や新たな価値創造のチャンスの時が来たかと捉え、これまでにない技術やサービスの構築にチャレンジしています。その一つとして、大気中のCO₂を再生可能エネルギー由来の水素と組み合わせることで、カーボンニュートラルガスを製造するメタネーション[※]という技術の開発を進めています。

深尾:カーボンニュートラルにおいて持続可能な社会を実現するには、新たなテクノロジーによるCO₂削減後の社会や経済を支え

るための仕組み、地域や人々の新たな暮らしのデザインをおこなっていくことも必要ですよ。

井上:おっしゃる通りです。カーボンニュートラルは、今の生き方や暮らし方を我慢しなければならない、社会活動や経済活動を制限しなければならないのではありません。我々はカーボンニュートラルによって「Quality of life = 生活の質」を落とさない、むしろ上げていくような価値を創造していくことを大切にしています。そういった意味では、龍谷大学の学生の方々には大きな期待を寄せています。カーボンニュートラルをはじめ持続可能な社会に関して、すでに高いリテラシーをお持ちなので「カーボンニュートラルな暮らしはカッコいい」「人も暮らしも社会も幸せになれる」といった新しいライフスタイルや感覚をさらに発信・実践していただければ、地域や社会全体の環境に関するモラルやリテラシーが上がっていくのではないのでしょうか。



農業用のため池を活用した水に浮かぶ「龍谷フロートソーラーパーク洲本」。2017年から稼働

深尾: 本学としては、3キャンパスの使用電力の100%再生可能エネルギー化の達成で完了ではなく、その価値をさらに検証する、次のステップに繋げていくための学びの機会も構想しています。

井上: より優れたグリーン人材育成については、我々が培ってきたエネルギーやインフラに関する知見、技術も活用していただければと思います。例えば、3キャンパスの100%再生可能エネルギー化については、現在の供給量や使用量などを「見える化」できるシステムの導入や、通学をはじめ学生さんが日常でのCO₂の排出量と削減量がわかるアプリの活用も良いのではないのでしょうか。楽しく、取り組み甲斐があると思います。

深尾: 確かにそうです。井上社長がおっしゃったように、カーボンニュートラルは我慢や規制ではありません。学生には、これから始まる新しい社会や価値を自分たちが築いていくと

いうワクワク感を学びを通じて体感し、将来に繋げてほしいと思います。

井上: カーボンニュートラルによる持続可能な社会を牽引するのは、龍谷大学の学生の皆さんのような若い人たちです。我々や地域の方々とも思いを一つに、カーボンニュートラルにともに取り組んでいきましょう。

深尾: 今、企業も大学も、そして社会を構成する誰もが持続可能な社会に向けての取り組みを避けて通ることはできません。だからこそ、本協定を通じて、カーボンニュートラルによってかなう新しい価値を広く提示していきます。本学の持続可能な社会に向けての目標は、誰もが幸せになることです。

※メタネーション(e-methane)
https://www.daigasgroup.com/rd/topic/1310193_53539.html





my campus

08 My Campus マイキャンパス

タイトル「龍大の夕焼け」

Kさん 2023年6月撮影(深草キャンパス)

「My Campus」ページでは、時代の流れとともに変わりゆく龍谷大学の「今」を感じていただけるキャンパス風景写真を、読者の皆さまから募り紹介しています。キャンパスの素敵な瞬間を是非写真に収めてご応募ください。

応募写真の中から厳選の上、次号の本ページを飾らせていただきます。

応募締切

2024年1月9日(火)

募集内容

龍谷大学のキャンパスを撮影した写真
(本学と関連のある場所・施設等)

応募方法

以下のフォームからご応募ください。

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/mycampus/>



注意事項

- ・2023年9月以降に本人が撮影した写真に限ります。
- ・1点につき10MB以内のjpgファイル。
- ・誌面の都合上、掲載は横サイズのトリミングとなります。撮影の際にはご注意ください。
- ・組写真、合成写真、過度の画像補正など実像に反する写真は不可。
- ・著作権・肖像権の侵害には十分に注意してください。
- ・応募に係る個人情報は本事業以外には利用しません。
- ・応募写真につきましては、龍谷大学が広報活動のために自由に利用できる権利を許諾していただきます。

応募写真は以下から閲覧いただけます。
龍谷大学の「今」を是非ご覧ください。

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/mycampus/>



09

Ryukoku Products & Amenities

オリジナル商品・学内設備の紹介



龍谷大学オリジナル ロゴグッズ

ミニタオル、クリアファイル、
ノート、USBメモリ、ボールペン



ロゴ入りポロシャツ



龍谷大学オリジナルハッ橋、
ロゴ入りペットボトル飲料水

Products 学生と企業が共同開発した商品（抜粋紹介）



京飴「龍谷玉」

スポーツサイエンスコースの松永ゼミ生が、農学部監修の純粋ハチミツを使用した京飴を今西製菓株式会社と共同開発



小豆粥

農学部生が農場で育てたお米と大粒の大納言小豆を使用。日本料理 新月と共同開発



『大宮BITO』『深草OTOME』『HANNA瀬田』

経営学部、農学部、文学部、心理学部の教職員と学生が、高級紅茶ブランド「ムレスナティーハウス」の協力のもと、龍谷大学の3つのキャンパスを「香り」で表現したオリジナルブレンド紅茶



商品の一部は「龍谷メルシー・オンラインショップ」にて取り扱っております。
<https://store.shopping.yahoo.co.jp/ryukokumerci-online/>

Pickup

学内に導入した設備

自パン機(左)

瀬田キャンパスに新たに手づくりパンの自動販売機「自パン機」を設置。毎日お店で焼きあげた手づくりパンや焼き菓子が自動販売機で手軽に食べられます。

ポスマート(右)

食品が買える自動販売機サービス「ポスマート」を深草と瀬田キャンパスに設置。隣の飲料自販機で支払い、棚から商品をとるシステム。お菓子やカップ麺など24時間購入可能に。





西本願寺で「新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方の追悼会」と「わかちあいの会」を開催

2023年3月、社会的孤立回復支援研究センターは「新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方の追悼会」と、新型コロナウイルス感染症で身近な人を亡くされた方や、新型コロナウイルス病棟等の医療従事者、感染者の介護に携わった介護福祉従事者が互いに心の内を語り合う「わかちあいの会」を西本願寺で開催。232人が参加し追悼法要で祈りをささげた。本センターは遺族会を通じて今後も複雑な思いや痛み、喪失感を抱えた遺族支援を継続していく。



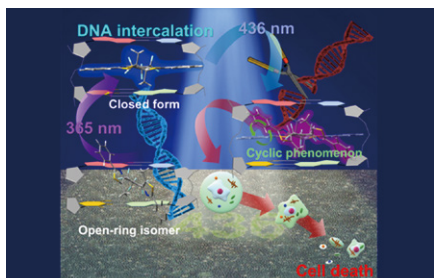
農学部微生物科学研究室×近江麦酒発泡酒『菜の花エール』を開発・商品化栽培から取り組んだ「菜の花漬け」を使用

発酵醸造の研究をしている農学部微生物科学研究室(島純教授)は、研究室で分離育種した酵母と、農場がある滋賀県大津市上田地区の特産品「菜の花漬け」を使った発泡酒『菜の花エール』を近江麦酒と協働で開発・商品化。限定350本を2023年3月に販売した。「菜の花漬け」は、『上田上菜の花の里元気づくり事業』で学生と地域の方との連携で製造した。塩で漬け込んだ菜の花を副原料として使うことで、風味豊かな発泡酒に仕上げた。



元最高裁判事 團藤重光氏が遺した公書訴訟の内幕資料などを特別展示三権分立の大原則が侵害された可能性示唆

矯正・保護総合センターは2023年5月に至心館で生誕110周年記念特別展『團藤重光の世界—法学者・最高裁判事・宮内庁参与』を開催。NHKのETV特集「誰のための司法か〜團藤重光 最高裁・事件ノート〜」で紹介された、團藤氏が遺したノートを初めて一般公開した。夜間の飛行停止を住民が求めた「大阪空港公害訴訟」の最高裁での審理経過を明らかにする貴重な資料である。同センターは團藤氏の膨大な遺品のデジタル化保存と研究に取り組んでいる。



先端理工学部内田欣吾教授らの共同研究グループ 光応答色素の存在下、光照射でがん細胞を死滅 させるメカニズムを解明

理工学研究科の中川優磨さん(研究当時博士後期課程3年)と先端理工学部の内田欣吾教授は、産業技術総合研究所、山梨大学との共同研究において、光で可逆的に色が変わる性質を持つジアリールエテンが光の吸収により起こる異性化を経て細胞のDNAの塩基対間に挿入された後に、光照射することでヒトのがん細胞(HeLa細胞)を細胞死させることを見いだした。研究成果は米化学会論文誌『Journal of Medicinal Chemistry』に掲載された。



島津製作所と包括連携協定を締結 日本初、自己循環型リサイクルに参画 プラ製梱包材を廃液用ポリ容器へ再生使用

龍谷大学は2023年5月、島津製作所と循環型社会形成へ向けて包括連携協定を締結した。同社が構築した日本初の自己循環型リサイクル(自社から排出する梱包材をポリエチレン容器に再生して社内で利用)に参画。学内で排出するプラスチック製梱包材をペレット化し、廃液用ポリエチレン容器として再生。先端理工学部や農学部の実験等で排出される化学物質を含んだ廃液の保管容器として使用。今後、同社と環境教育・研究等、広範な分野でも連携を進める。



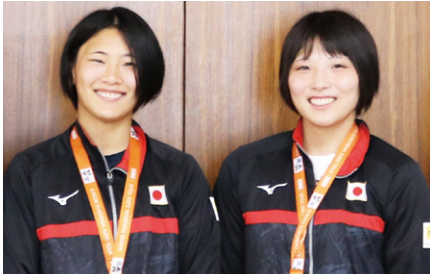
創部初、日本代表混合ダブルスB代表に選出 西大輝・佐藤灯ペアが見事3位入賞

全日本総合バドミントン選手権大会の混合ダブルスでベスト4に進出し、2023年日本代表選手B代表に選出された西大輝選手(政策学部3年)と佐藤灯選手(レゾナック所属、2023年政策学部卒)が2023年6月にアメリカ合衆国サイパン島で開催された「Northern Marianas Open 2023」混合ダブルスに出場。代表入り後、初の海外大会で世界トップレベルの選手を相手に見事3位に入賞した。本学選手が日本代表に選出されたのは創部初の快挙。



「第46回全日本アンサンブルコンテスト」 大学生の部 クラリネット四重奏が金賞に輝く

2023年3月、アクティシティ浜松で「第46回全日本アンサンブルコンテスト」大学生の部に関西支部代表として出場した吹奏楽部のクラリネット四重奏が金賞を受賞した。1年生4人という経験の浅いメンバーで構成されたアンサンブルチームでありながら、洗練された音色と一糸乱れぬ一体感を感じさせる演奏で、J.M.デュファイ作曲「オーディションのための6つの小品」を披露。金賞を受賞した3団体のなかで、審査員から最も高い評価を受け日本一に輝いた。



日本代表に選出の神谷鈴選手、林佑美選手が「2023年フランスジュニア国際大会」に出場初の国際舞台で両選手ともに金メダルを獲得

柔道部の神谷鈴選手と林佑美選手（ともに文学部3年）が日本代表選手女子C強化ジュニアとして、2023年5月にパリで開催の「2023年フランスジュニア国際大会」に出場。柔道が盛んなフランスで初めての国際大会に臨み、不安と緊張のなか、52kg級の神谷選手、48kg級の林選手ともに準決勝までの試合を粘り強く勝ち上がり、両選手とも決勝戦ではフランス代表の選手を相手にあわせ技の一本勝ちで見事金メダルに輝いた。



龍谷大学・オイテル(株)・京都市が連携し生理用ナプキンディスプレイ「OiTr」を全国初、公立学校に試行的設置

京都市立の中小高校の3校に計10台の生理用ナプキンディスプレイ「OiTr」が設置された。これは「生理の貧困」の解決に取り組む本学が、オイテル株式会社、京都市と協議し実現した、全国の公立学校で初めての試み。「OiTr」は端末のディスプレイに表示される動画の広告収入で諸費用をまかなう仕組みだが、公立学校への設置に際し、広告動画は、児童生徒向けの内容に改めた。2023年5月から約1年間の試行的設置・運用をおこなう。



洋弓部 原田愛実選手が大会新記録で優勝「全日本学生アーチェリー西日本大会」

2023年5月「第31回全日本学生アーチェリー西日本大会」で洋弓部の原田愛実選手（経営学部1年）が大会新記録を樹立し見事優勝に輝いた。6月開催の「第58回全日本学生アーチェリー女子王座決定戦」では、関西リーグ4勝1敗というチーム成績で創部初の出場を決め、ベスト8の成績を残した。また、原田選手は4月に「世界ユース選手権大会最終選考会」でU21日本代表に選出され、7月にアイルランドで開催の「世界ユース選手権大会」に出場した。



1食100円の「百縁夕食」を開催 物価高騰のなか、親和会(保護者会)等の協力を得て学生を支援

物価高騰等の影響により経済的に厳しい状況におかれる学生への支援を目的に、1食100円で栄養バランスのとれた夕食を提供する「百縁夕食」を2023年7月10日から27日に実施した。本学と親和会(保護者会)、龍谷大学生協、Café Ryukoku & が連携し、百(多く)のご縁(つながり)に支えられていることに感謝し、新たなご縁が広がっていくようにという想いを込めコロナ禍の2021年度から取り組んでいる。廃棄食品削減のため事前予約制でおこなった。



「関西学生卓球選手権大会」男子シングルス 内田智也選手が見事優勝 本学日本人学生の優勝は85年ぶりの快挙

2023年6月に近畿大学記念館（大阪市）で開催された「令和5年度第92回関西学生卓球選手権大会」の男子シングルスで、卓球部の内田智也選手（経済学部4年）が、関西学院大学との熱戦をゲームカウント4-2で制し、優勝に輝いた。本大会男子シングルスで本学日本人学生の優勝は昭和13年以来、85年ぶりの快挙。また、男子ダブルスでは、和田晃典選手（政策学部2年）と畦地悠斗選手（国際学部4年）の組が、3位入賞に食い込んだ。



女子バレーボール部が西日本インカレで優勝 創部初、同大会での2連覇を達成 監督含め5人が個人賞を受賞

「2023年度第49回西日本バレーボール大学女子選手権大会（西日本インカレ女子）」は2023年7月9日に最終日を迎え、本学は前回決勝で競った神戸親和大学との決勝戦を制し、見事2年連続3回目の優勝を飾った。西日本インカレでの2連覇は創部初の快挙。最優秀選手賞に加藤花（経済学部4年）、セッター賞に廣谷菜々子（文学部3年）、リベロ賞に高井凜（農学部1年）、レシーブ賞に渡辺彩香（国際学部1年）、優勝監督賞に江藤直美氏が選ばれた。



経営学部 松永研究室が「日本スポーツ産業学会長賞」「山梨県知事賞」をW受賞 産公学連携プロジェクトとして始動

2023年7月「日本スポーツ産業学会第32回大会@山梨学院大学」のアイデアコンペにて、経営学部スポーツサイエンスコース松永敬子研究室（学生3人・教授1人）が「日本スポーツ産業学会長賞」「山梨県知事賞」をW受賞。3年連続受賞の栄光だ。過疎地域などの地域創生をめざしたビジネスモデル「推し活×スポーツ×名産品開発」を提案。山梨県の委託事業として甲府市と京都市伏見区の企業と農学部の協力を得て、産公学連携で名産品開発を始動する。



大門弘幸（だいもん・ひろゆき）教授 副学長に就任（任期：2023.4.1～2024.3.31）


大阪府立大学大学院農学研究科園芸農学専攻博士後期課程修了。大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授、同大名誉教授を経て、2015年本学農学部教授として教鞭を執る。2019年同学部長に就任。農学博士。マメ科作物と根粒菌の共生を研究する作付体系の専門家。著書に『作物栽培大系第8巻・飼料・緑肥作物の栽培と利用』『作物学概論』など多数。2005年第51回日本作物学会賞受賞。2022年4月日本作物学会会長に就任。

11 Book Café

新刊紹介


*は大学から出版助成を受けた書籍です。
著者編者等は本学関係者のみ、お名前を掲載しております。

龍谷大学仏教文化研究叢書44
『**大乘莊嚴經論**第IV章の和訳と注解*
—菩薩の発心—』




若原 雄昭(龍谷大学名誉教授)編
能仁 正顕(文学部教授)・
早島 慧(国際学部准教授)著訳
法蔵館/3,300円(税込)

龍谷大学世界仏教文化研究叢書45
『**仏教・親鸞浄土教を機軸とした宗教実践
と社会実践の研究***』



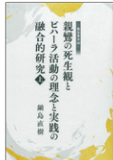
鍋島 直樹(文学部教授)・貴島 信行(龍谷大学
客員教授)・黒川 雅代子(短期大学部教授)・
玉木 興慈(文学部教授)・那須 英勝(文学部教授)
森田 敬史(文学部教授)編著
方丈堂出版/3,960円(税込)

龍谷大学仏教文化研究叢書46
『**東アジア仏教思想史の構築***
—凝然・明恵と華嚴思想—』




野呂 靖(心理学部准教授)共編
法蔵館/4,400円(税込)

龍谷叢書60
『**親鸞の死生観とビハーラ活動の理念と
実践の融合的研究(上下巻)***』




鍋島 直樹(文学部教授)著
永田文昌堂/上巻:5,500円(税込)
下巻:6,050円(税込)

龍谷叢書61
『**感動を、演技する***
—フランクフルト学派の性愛論—』




入谷 秀一(文学部准教授)著
晃洋書房/5,280円(税込)

龍谷大学社会科学研究所叢書第136巻
『**アフリカ潜在力のカレイドスコープ***』




落合 雄彦(法学部教授)編著
晃洋書房/3,850円(税込)

龍谷大学社会科学研究所叢書第137巻
『**ポピュリズム、ナショナリズム
と現代政治***
—デモクラシーをめぐる攻防を読み解く—』




渡辺 博明(法学部教授)・橋口 豊(法学部教授)・
高橋 進(龍谷大学名誉教授)・松尾 秀哉(法学部教授)・
石田 徹(龍谷大学名誉教授)・安 周永(政策学部教授)共著
ナカニシヤ出版/3,850円(税込)

龍谷大学社会科学研究所叢書第138巻
『**地域産業政策の新展開***—京都市を中心
とした歴史研究と比較研究を踏まえて—』




白須 正(元政策学部教授)・
細川 孝(経営学部教授)編
文理閣/3,960円(税込)

龍谷大学社会科学研究所叢書第139巻
『**インターネット時代のヘイトスピーチ
問題の法的・社会的捕捉***』



金 尚均(法学部教授)編集代表
石塚 武志(法学部准教授)
濱口 晶子(法学部准教授)
日本評論社/6,820円(税込)

龍谷大学社会科学研究所叢書第140巻
『**東アジアの環境政策と課題***』



北川 秀樹(龍谷大学名誉教授)編著
大島 堅一(政策学部教授)・
松浦 さと子(政策学部教授)・
櫻井 次郎(政策学部教授)著
日本評論社/7,150円(税込)

龍谷大学社会科学研究所叢書第141巻

『刑事司法記録の保存と閲覧』*

—記録公開の歴史的・学術的・社会的意義—



石塚 伸一(龍谷大学名誉教授)編著
村井 敏邦(龍谷大学名誉教授)・畠山 亮(法学部教授)・
瀬畑 源(法学部准教授)・福島 至(龍谷大学名誉教授)・
古川原 明子(法学部教授)・玄 守道(法学部教授)著
日本評論社/8,250円(税込)

『赤ちゃんの虐待えん罪』*

—SBS(揺さぶられっ子症候群)と
AHT(虐待による頭部外傷)を検証する!—



古川原 明子(法学部教授)編著
現代人文社/1,650円(税込)

『長寿ファミリー企業の
アントレプレナーシップと地域社会』*

—時代を超える京都ブランド—



辻田 素子(経済学部教授)編著
白須 正(元政策学部教授)・
松岡 憲司(龍谷大学名誉教授)・
神吉 正三(法学部教授)・伊達 浩憲(経済学部教授)著
新評論/3,080円(税込)

『学知の帝国主義』*

—琉球人遺骨問題から考える近代日本のアジア
認識—



松島 泰勝(経済学部教授)著
明石書店/6,380円(税込)

『ブラフマニズムとヒンドウイズム 1』*

—古代・中世インドの社会と思想—



手嶋 英貴(法学部教授)編
法蔵館/5,500円(税込)

『ブラフマニズムとヒンドウイズム 2』*

—古代・中世インドの宗教と実践—



手嶋 英貴(法学部教授)編
法蔵館/5,500円(税込)

『フライングディスクの指導教本』*

—フライングディスクの飛行について—



久保 和之(社会学部教授)著
晃洋書房/2,530円(税込)

『息 一つの決断』

今井 敦(経済学部教授)翻訳
松籟社/1,870円(税込)



『法の近代』

—権力と暴力をわかつもの—



嘉戸 一将(文学部教授)著
岩波書店/1,034円(税込)

『小児科学 第11版』

楠 隆(農学部教授)共著
文光堂/28,600円(税込)



『はじめての社会調査』

三谷 はるよ(社会学部准教授)・
工藤 保則(社会学部教授)共編
世界思想社/2,640円(税込)



『エッセンシャル植物育種学』

—農学系のための基礎—

神戸 敏成(農学部教授)・
三柴 啓一郎(農学部教授)共著
講談社/3,740円(税込)





『未来を考えるための
科学史・技術史入門』

小長谷 大介(経営学部教授)共編著
北樹出版/2,750円(税込)



『メカトロニクスの基礎 第2版』

渋谷 恒司(先端理工学部教授)著
森北出版/2,640円(税込)



『芥川龍之介・菊池寛共訳
完全版アリス物語』

澤西 祐典(国際学部講師)訳補・注解
グラフィック社/1,980円(税込)



『昭和天皇拝謁記(7巻)』

一初代宮内庁長官 田島道治の記録―
瀬畑 源(法学部准教授)編
岩波書店/3,300円(税込)



『宗教学(3STEPシリーズ 4)』

竹内 綱史(経営学部教授)・
古荘 匡義(社会学部准教授)編
猪瀬 優理(社会学部教授)著
昭和堂/2,530円(税込)



『現代教育法』

寺川 史朗(法学部教授)共著
日本評論社/3,300円(税込)



『法と感情の哲学』

橋本 祐子(法学部教授)監訳・訳
勁草書房/6,600円(税込)



『FORCE』

―トレーニングのバイオメカニクス―
長谷川 裕(経営学部教授)翻訳
オリンピック印刷/2,200円(税込)



『スプリントのバイオメカニクス』

―FORCE 2―
長谷川 裕(経営学部教授)翻訳
オリンピック印刷/2,200円(税込)



『デジタル化と地方自治』

―自治体DXと「新しい資本主義」の虚妄―
本多 滝夫(法学部教授)共著
自治体研究社/1,870円(税込)



『辺野古裁判と沖縄の誇りある自治』

―検証 辺野古新基地建設問題―
本多 滝夫(法学部教授)共編著
自治体研究社/1,650円(税込)



『優しいコミュニケーション』

―「思いやり」の言語学―
村田 和代(政策学部教授)著
岩波書店/1,034円(税込)

広報誌「龍谷」

広報誌「龍谷」96号読者アンケート&プレゼントのご案内

今後の広報誌づくりのため、皆さまのご意見をお聞かせください。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選でご希望の読者プレゼントが当たります。お寄せいただいた感想・近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

締切 2024年1月9日(火)

Web応募フォーム

<https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/>



読者プレゼント

ハガキでご応募の方は、ご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号・(龍谷大学卒業生は卒業年度・学部)および広報誌「龍谷」の感想・意見、近況などを書き添えてご応募ください。

※いただいた個人情報は広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。



ZOZOTOWN×龍谷大学

コラボカレッジスウェット…4名様

※4種類の中からいずれか1種類をお届け(Lサイズ)

※ZOZOTOWNでの販売は既に終了しています。

読者アンケートのあて先

龍谷大学 学長室(広報)

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

電話 075 (645) 7882 FAX 075 (645) 8692

E-mail:kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

読者のひろば

研究分野やクラブ活動のこと等、様々なことが分かり身近に感じることができた。(Fさん)

学生さんたち同士が、自分の学部以外のことを良く知っていたり、機会になればな、と思います。(Uさん)

広報誌「龍谷」のデジタル版配信について

広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧いただけます。冊子版の送付を希望されない方は、下記URLまたはQRコードからメールマガジン登録をお申し込みください。ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をお届けします。

広報誌「龍谷」デジタル版配信(メールマガジン登録)

<https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/>



広報誌「龍谷」デジタルライブラリー

(過去の広報誌もご覧いただけます)

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/>



経営学部藤岡ゼミ×(株)マンドリル

レトルトカレー「ぶどう山椒をかけて食べるカレー」…5名様

※3種類の中からいずれか1種類をお届け。

編集委員：井上 辰樹、木村 陸、野呂 靖、松永 敬子

事務局：田中 雅子、谷 穂乃美、山田 美由紀

広報誌「龍谷」96号

2023年9月22日発行

編集：広報誌「龍谷」編集委員会

制作：龍谷大学 学長室(広報)

発行：龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

電話 075 (642) 1111(代表)

龍谷大学ホームページURL

<https://www.ryukoku.ac.jp/>





公式 X (旧 Twitter) 「龍谷大学広報」

x.com/ryukoku_univ_pr



公式 Instagram 「龍谷大学」

www.instagram.com/ryukokuuniversity/



公式 Facebook 「龍谷大学」

www.facebook.com/RyukokuUniversity/



公式 YouTube 「龍谷大学」

www.youtube.com/user/RyukokuUniversity

